

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震 活動報告

報告年月日：2024年3月30日(土)

活動隊員：佐々木 康介

1. 活動日時

2024年3月18日(月)12時～3月20日(水)12時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

珠洲市立正院小学校仮設住宅(石川県珠洲市正院町1字39番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況(3月19日14時点)

人的被害：死者103人(うち災害関連死6人)、負傷者：重傷47人、軽傷202人

住家被害：計8,676棟(全壊2,832棟、半壊2,276棟、一部損壊3,568棟)

非住家被害：3,690棟

4. 大谷小中学校避難所の状況

【避難者総数および一時帰宅者等の数】

3月18日(月)43名20世帯(うち一時帰宅者8人)

3月19日(火)40名18世帯(うち一時帰宅者5人)

3月20日(水)40名18世帯(うち一時帰宅者5人)

【避難所運営体制】

食事提供体制が3月19日までは朝食、昼食は避難者が交代で調理(缶詰やレトルトを活用)、夕食は自衛隊等の炊き出しであったが、炊き出し等の支援の終了に合わせ、3月20日以降は、朝食は避難者が交代で調理し提供、昼食は大谷小中学校の学校給食と一緒に提供、夕食は地元業者のお弁当が提供できるよう調整されていた。今後の食事提供体制に向け、避難所には保管用冷蔵庫2台と電子レンジ2台が設置されていた。また大谷小中学校の終業式終了後に、数組の家族が避難所を離れる予定であった。その方々が配膳や片付け等を担当されていたため、退所後には避難している住民が自分たちで配膳や片付けを行う方法が検討されていた。

外部支援として、3月19日にはキッチンカー協会、20日は日本赤十字社による炊き出し支援が行われた。避難所運営を支援している千葉県行政職員は、3月20日に職員の交代があり、3月31日で派遣終了予定である。また3月18日にNHK連続テレビ小説「まれ」の出演者(常盤貴子氏など)の慰問があり、住民との交流が行われた。

5. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所>

朝のおしぼり配布時に住民に挨拶して回りながら、体調確認を行った。朝食終了後には、住民とともに体育館内や出入口周辺の環境整備を実施した。高齢男性1名に対し、血圧測定、体重測定や

下肢の浮腫状況確認等を行った。自身の健康管理を積極的に実施されており、浮腫の状況は改善されていたが、内服の飲み忘れ等がないように適宜声かけを行なった。

また、避難所内での電力使用過多により 19 日、20 日とブレーカーが落ちる事案が発生した。避難所管理者等と分電盤を確認のうえ、使用している機器類(ストーブや照明など)の消費電力を計算しながらの付け替えを行った。点検に来た業者より、漏電している可能性があると言われたため、同じような事象が続くようであれば調査や修理が必要になるとのことであった。

<正院小学校仮設住宅>

3月18日から20日に、ピースウィンズ・ジャパンの看護師とともに正院小学校の応急仮設住宅で個別訪問を実施した。連日30件から40件の訪問を行い、3月18日6名、19日6名、20日(午前)4名から公費解体の申請状況や生活状況について話を伺った。入居者の中には内服薬がなくなる住民も数名おり、「かかりつけの病院が再開しているかどうか分からない」と話していたことから、医療機関の再開状況が分かるチラシを渡し、受診いただくように声掛けした。

また、自宅で自営業をしていた方は、自宅の倒壊により仕事の再開目処が立たず、経済的問題について不安を抱かれていた。公費解体や仮設住宅への入居手続き等は終えていたが、生業への支援が必要であったことから、健康増進センターでの共有会議にて住民の声を共有し、社会福祉協議会より、貴重品の保全や生業を継続するための家財運び出し支援等に関する情報提供を住民へ行うことになった。

6. 支援を通しての所感と課題

大谷小中学校避難所では、連日自宅の片付け等のために一時的に避難所を利用する家族があり、今後本格的な復旧や復興が進むにつれて一時利用者が増加する可能性がある。一時的な避難者数増加に伴う避難所運営を担当する方々の負担を軽減する方策が必要である。

正院小学校仮設住宅では、入居者の健康状態の確認、継続的な受診状況等について個別訪問を行いながら確認する必要がある。

7. 参考写真



写真1 正院小学校仮設住宅のスロープ
車いすやシルバーカーを使用している
住民の家は勾配が緩やかになるように
設置されていた



写真2 仮設住宅の集会場